

地域活性化の推進

1. はじめに

東日本大震災発生から3年と2ヵ月が経ち、昨年10月にはがれき撤去も完了し、復旧事業は概ね完了を迎え、復興公営住宅の建設や169地区におよぶ丘陵地区の被災宅地復旧工事など「仙台市震災復興計画」に基づいた数々の施策に全力で取り組み、防災集団移転先への転居や復興公営住宅の入居申し込みの開始など、復興を実感していただける段階へと歩みを進めてまいりました。これまでの全国のみなさまのご支援、ご助力に対しまして、心から感謝を申し上げます。本年度は「復興躍進の年」と位置付け、かさ上げ道路の工事や海岸公園の再整備など、本市東部地域の復興は新たなステージに入っております。

平成27年3月には「第3回国連防災世界会議」が仙台で開催されます。東日本大震災の経験を経て学んだ貴重な教訓と都市防災へ向けての本市の知見を世界の国々と共有し、新たな国際防災戦略の策定に貢献いたしますとともに、被災地東北が復興へ向け、力強く立ち上がらんとする姿を世界に向けて発信いたします。

また、昨年7月にトンネル全線が貫通しました地下鉄東西線ですが、この新しいインフラを単なるインフラとしてだけでなく、さまざまな面から本市のまちづくりの大きな起爆剤として市民協働で取り組んでいく総合的な指針として「東西線

フル活用プラン」を取りまとめました。

2. 東西線フル活用プラン

もともと本市は、市民力が高く、例えば、「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」や「SENDAI光のページェント」などのように、市民の発案で始まり全国規模のイベントに育つなど、市民活動の意識レベルが高い土壌があります。

そのようなことから、本プランは、沿線地域の歴史や文化、産業など、それぞれの地域特性を活かしながら地域のみなさまとともにそのポテンシャルの向上、居住や企業立地の促進、地域内外の交流拡大など、地域ブランド力や本市全体の活力アップにつなげる総合的な取組みとしてまとめております。

本プランを実現していくためには、地域が一体となって取組みを進めることがその効果を最大限に発揮させるものであると考えており、「市民力」を大いに発揮していただきながら、市民協働での「まちづくりの新しい手法」として本プランをベースに展開してまいります。

本プランは、今後、市民のみなさまにさまざまな形で関わっていただきながら進化をさせてまいります。

本プランの柱を簡単に紹介いたしますと、

①移動手段に加え、乗ること自体や駅に行くこ

仙台市長 おくやま
奥山 えみこ
恵美子



とを目的のひとつとするための工夫

- ②沿線の歴史・文化・自然などの地域資源を活かしたブランドづくり
- ③開業に向けた機運の醸成
- ④沿線における機能の高度化

を内容としております。

また、これまでも本市のまちづくりに積極的に携わってこられたみなさま方を中心に、連携して沿線のまちづくりの推進を主体的に取り組んでいただけの枠組みとして「東西線まちづくり市民応援部」が立ち上がりました。このまちづくり市民応援部が中心となり、賑わいづくりや東西線開業に向けた盛り上げなどさまざま展開いただけることを大いに期待しているところです。

3. 地下鉄東西線・「移動のための都市インフラ」から「市民主導のまちづくり推進装置」へ

このフル活用プランの目的を最大限達成するためのツールとして、平成26年度から新たなプロモーションを開始いたします。このプロモーションは従来の価値訴求型の広告宣伝活動とは一線を画し、東西線という都市のインフラを市民共有の財産として多面的に活用していただきながら利用促進のみならずまちづくり全般に効果をおよぼしていくという、共感型・体験型のマーケティング

を戦略に据えております。

そのため、ロゴやキャッチフレーズに斬新さを強調しつつ、各駅に新しい情報発信ツールを組み込み、市民の方々が主体的に運営・活用するシステムを導入いたします。

この取組みは、将来的には市民主導での運営を視野に入れており、今後市民プロデューサーをはじめとする人材の育成も進めてまいります。

このように地下鉄東西線は、単に移動のための都市インフラを超えた「まちづくり推進装置」として新しい地平を切り開く存在であり、地域活動の一層の活性化や地域を担う人材の発掘育成、経済への波及など複合的な効果の発現を狙ってまいります。

本市最大級のこのプロジェクトは、このように本市のまちづくりを新たなステージに導く起爆剤として、重要な役割を果たすことでしょう。

4. おわりに

早期復興への挑戦を積み重ねたこの3年間、本市は震災廃棄物処理における8割を超えるリサイクル率の達成や、災害に強く環境にも配慮した南蒲浄化センターの復旧事業などに取り組んでまいりました。これらを誇りとしながら、107万市民のみなさまとともに挑戦を続け、復興躍進へ向けて全力を尽くしてまいります。